

# ぱれっと

2009

5月

No.117

## ■ 目次 ■

- |         |  |
|---------|--|
| すぽっとらいと | 安心して子育てができる社会をつくる<br>(特活) せんだいファミリーサポート・ネットワーク |
| アラカルト   | サポセン10周年記念特集①                                  |
| サポセン日記  | 『ぱれっと』が発送されるまで                                 |
| お知らせ    | 【第2期】サポセン・シアターを3倍面白くする企画<br>実施6企画決定!           |
| イベント紹介  | 5月のイベント紹介                                      |
| 今月のサポ本  | 『フードバンクという挑戦 貧困と飽食のあいだで』                       |

10周年記念サポセンアルバム

Album No.2



本町サポセン 交流サロン

### “交流サロン” で会いましょう!

「気軽に利用できる市民活動の広場」がキャッチフレーズのサポセンを象徴する場所、それが「交流サロン」です。

予約なし、無料で利用できるこのスペースに、それまで喫茶店などでの打合せを余儀なくされていた、多くの市民活動団体のみなさんが訪れました。

この10年間の「交流サロン」の賑わいは、そのまま仙台の市民活動の賑わいだったと言えるでしょう。

もちろん、これからも!

# すぽっとらいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

## 安心して子育てができる社会をつくる (特活) せんだいファミリーサポート・ネットワーク

広瀬通りに面した仙台市ガス局ショールームの3階にある「のびすく仙台」。ここの管理・運営を行っているのが、(特活) せんだいファミリーサポート・ネットワークです。県内の地域の子育て環境の改善と家族の支援を目的とした子育て支援団体です。

今回は、代表理事のお一人である、のびすく仙台館長の伊藤仟佐子さんにお話を伺いました。

### ● みんなの想いがぎゅぎゅに詰まった出発

(特活) せんだいファミリーサポート・ネットワーク(以下、ファミサポ)は、「子ども家庭支援センターを考える会」を母体に誕生しました。「子ども家庭支援センターを考える会」は、仙台市が子ども家庭支援センター(のびすく仙台)の設置を予定していることを知り、市内の子育てに係る団体が集まり、自分たちの声を生かした施設づくりをしてほしい!という声をあげたことから始まりました。この会の中で、仙台市子供企画課の職員に計画の進捗状況を説明してもらったり、実際に子育てをしているお母さんたちにも参加してもらいながら話し合いを重ね、市への提言書を作成しました。それを子供企画課に自分たちの声として提出しました。その後、センター運営は民間へ委託されるという話も出てきたため、自分たちで運営もチャレンジしてみようという話に進んでいきました。

そして、2003年3月に任意団体としてファミサポを設立。委託の準備と同時進行で、法人化の手続きも行い、同じ年の11月に法人格を取得しました。こうして、これまで市内のさまざまな場所で活動をしていた小さな地域の子育て団体が、出会い、つながり、自分たちの経験や想いを集めた施設を作る、という一つの大きな目的に向かって少しずつ動き始めたのです。

### ● ここはあなたの居場所

伊藤さんは、今から13年前、小さな子どもと一緒に遊びに行ける公園や施設を紹介する『子連れママの気晴らしマップ』を子育て中のお母さんたちと一緒に作っていました。当時、ご自身も3歳の娘さんを持つお母さんでした。編集会議や打ち合わせのために小さな子どもを連れて、さまざまな公共施設を渡り歩く日々で、何度も「すみません」という言葉を繰り返していました。「子ども

を連れて行くと、あきらかに歓迎されていない雰囲気を感じましたね。数組の親子がかたまりで動くでしょ、確かに迷惑だったと思います。だからこそ、自分たちの居場所が欲しかったんです」この想いが、後にファミサポ誕生の大きな原動力になったと伊藤さんは言います。ほかの2人の代表理事も、子育て中のお父さんやお母さんなので、子どもと一緒にのお母さんたちが私らしくいられる場所、親と子がのびのびゆったり過ごせる居場所づくりがしたいと感じていたそうです。



▲ のびすく仙台 こどもひろばの様子

### ● 親子が一緒に成長できる場所

ファミサポが施設運営している「のびすく仙台」を紹介します。のびすく仙台は主に0歳から3歳くらいまでの親子を支援の対象としています。ゆったりと子どもを預かれる託児室、自由に飲食できるスペースに、子どもたちが思い切り遊べる広場もあります。お母さんたちは情報収集をしたり、ほかのお母さんやスタッフと話したりと、子どももお母さんものびのびと過ごせる施設となっています。子どもの成長に合わせた支援施設のチラシやニューズレターも、参考になるものがたくさん置いてあります。

また、親子が気軽に立ち寄れる場所ということだけでなく、子育てや家庭の問題に悩むお母さんの相談場所としても、その存在意義は大きいよう

## 団体紹介

### (特活) せんだいファミリーサポート・ネットワーク

せんだいファミリーサポート・ネットワークは、仙台市内・宮城県内の子ども、および家族福祉にかかわる団体や機関のネットワークをつくり、地域の子育て環境の改善と家族の支援を目的に活動している。

#### <団体連絡・問合せ先>

〒983-0836

仙台市青葉区国分町3-8-17 日東ハイツ204号

TEL&FAX 022-718-4401

HP <http://www15.ocn.ne.jp/~famisapo/index.html>



▲ のびすく仙台 受付

です。一見、元気そうに見えるお母さん方のなかにも、悩んでいる方はたくさんいて、職員と話をするなかで悩みが少しずつ見えてくるのだそうです。子育てに関する具体的な悩みを抱えた人から、夫婦の問題、離婚の問題など、誰に相談すればいいのかわからない悩みを抱えている人もいます。「お母さんが納得する形で専門家に相談できるように、時間をかけてゆっくり話をきくのです。ここでお話をするなかで、少しずつ気持ちがほだけていって、元気になったお母さんの笑顔を見ると、本当によかったと思います」子どももお母さんも、一緒にゆっくり成長できる場所、それがのびすく仙台なのかもしれません。

### ● サポセンはどうですか？

のびすく仙台では、「0歳児サロン」や「親子手作りサロン」などの親子支援のメニューを行っており、その会場としてサポセンの貸室を積極的に利用しています。「サポセンは、のびすく仙台から近くて、サロンに使うのにちょうどいい大きさのお部屋が多いので、とても重宝しています。床座のお部屋で託児もできるし、のびすく仙台には貸室がないので、のびすく仙台別室といったところでしょうか」スタッフの対応に対しては、「お母さんたちから、サポセンの使い方に慣れていないためスタッフの対応に戸惑うことがあるという声が聞こえてくる事もあります」と伊藤さん。初めて利用するお母さんたちだけではなく、利用者に対して、どのような対応が望まれているのか考えることが必要なことだと、同じ施設運営をしている視点から、少々辛口です。

### ● 本来のミッションを忘れない

これまでの活動の中で大変だったことはなかったのでしょうか。「苦労や大変だと思ったことはないですね」と満面の笑みでキッパリと言い切る伊藤さん。未来のある子どもたちの手助けになる活動ができることは、本当に幸せなのだそうで

す。子育てに行き詰まって、暗い顔で来るお母さんたちが、自分たちと関わることでどんどん笑顔になって、別人のようになって帰って行かれる姿を見たり、「ここがあったから、子育てをなんとか乗り切れました」とか「ここがなかったら、私はどうなってたかわからない」という声が聞こえてきたりすると、活動の必要性をひしひしと感じたそうです。

ファミサポのミッションは県内の地域の子育て環境の改善。「現代って、すごく幸せなはずの子育てが、つらく感じたり、嫌になったりする世の中じゃないですか。私たちの活動の根本は、お母さんたちが子育ては楽しいなって思える社会を作っていくことであって、少子化に歯止めをかけることではないんです」子どもに関わるさまざまな活動をしている団体の集合体であるファミサポが担うべき役割はこれからも拡大し続けていきます。

### 取材を終えて…

支援してくれる場所があるというだけで、安心して子どもを産む事ができると感じました。取材の中で伊藤さんは「私たちがお母さんたちを支えますから、安心して産んでください」と答えてくださいました。こんな活動をしている人がいる、こんな場所がある、その安心感が幸せな子育てを支えていくのだと感じました。

(担当 大西 千佳)

今回は、のびすく仙台の運営を中心にお話しを伺いましたが、ファミサポではその他にも以下の事業を行っています。詳しくは、団体連作先のホームページをご覧ください。

- 育児サークルの支援
- 転勤族の友だちづくりのサポート
- 父親・同居家族に対して、子育てに関する情報の提供
- 子育てを取り巻く現状の理解を深めるための研修

# サポセン 10周年記念特集①

◆サポセンは、おかげさまで2009年6月に10周年を迎えます。  
このコーナーでは、これまでのサポセンの軌跡をダイジェストで、振り返ります。詳しい内容については、10周年記念誌に掲載する予定です。

## ■サポセン前史 ～仙台の市民活動

私たちが暮らす仙台は、全国的にも市民活動が盛んに行われている地域と言われています。

60年代には、どぶ川とまで言われた梅田川の環境を回復させるため、梅田川河川環境浄化推進会議が発足し、流域町内会とともに川の清掃に取り組み1年あまりで魚の住む川へと回復させました。現在では、秋にシャケが遡上する川として市民に親しまれています。

同様に広瀬川でも流域の町内会が連携して、ごみの清掃や不法投棄の追放に取り組みました。そして、74年には広瀬川の清流を守る条例へとつながって行きました。

81年から始まった脱スパイクタイヤ運動は、「仙台の冬は粉じんだらけ」と言われた仙台を市民が立ち上がり再生させるとともに、90年のスパイクタイヤ禁止法制定へと繋がっていきました。

86年に始まったSENDAI光のページェントは、市民による実行委員会が主催する冬の風物詩として定着しています。そして、その後に展開される定禅寺ジャズフェスティバル、とっておきの音楽祭、杜の都のアート展などの市民による仙台の魅力づくりにつながっています。

このように、市民による仙台をよりよくしたいという想いにより、仙台では市民活動が展開されてきました。

## ■市民の声を市政に

93年の仙台は、ゼネコン汚職による市長逮捕に揺れました。その後に誕生した藤井市政の第一の仕事は、市政に対する市民の信頼回復でした。

その過程で策定され、96年にスタートした「仙台市基本計画（仙台21プラン）」には、「市民と行政の協働による都市づくり」「市民の主体的活動による個性あるまちづくり」といった言葉とともに市民活動の促進や支援が打ち出されました。

そして、仙台21プランを具体化していくために、97年7月に仙台市市民公益活動支援検討委員会が設置され、「仙台市の市民活動支援策に関する提言」が98年2月に提出されました。この中には、市民活動支援のための体制や施策などの具体的な記述がなされ、その1つとして市民活動支援施設の設置がうたわれました。

## ■サポセンへの道

98年5月には仙台市市民活動サポートセンター整備市民委員会が設置され、夏頃までにサポセンの機能構成と空間構成、整備場所などの検討が行われ、中間答申が提出されました。夏以降も引き続き、管理運営の手法にまで及ぶ17回の議論と市民に公開しての3回の意見交換会を経ながら、中間答申に添いサポセンの設計と改修工事が進められ、99年2月にサポセンのハード・ソフト両面の概要が決定しました。

このように、サポセンへの道は市民と仙台市との協働で築いてきました。全国初の公設民営型としてスタートしたサポセンは、実現過程だけで



▲ 1999年6月11日河北新報

1996年	1997年	1998年	1999年	開館	2004年
	7月	4月	3月	4月	6月
<ul style="list-style-type: none"> <li>「仙台市基本計画（仙台21プラン）」策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「仙台市市民公益活動促進支援策検討委員会」設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「（仮称）仙台市市民活動サポートセンター整備市民委員会」設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『市民活動ハンドブック』発行</li> <li>「仙台市市民公益活動に関する条例」施行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理運営団体に（特活）せんだい・みやぎNPOセンターが選考される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「サポセン5周年」</li> <li>『仙台市市民活動サポートセンター 5年の奇跡』発行</li> </ul>



『ぱれっと』では、サポセン開館10周年記念特集と題して、4号に渡ってサポセンの歴史を振り返ります。当時のスタッフや、利用者の声を取り上げていく予定です。お楽しみに！

なく、現在も協働の現場としての役割を果たしています。

## ■開館当初のサポセン

開館はしたものの、当初は利用者も現在ほど多くはありませんでした。10年前は、まだまだ市民活動への認知が低く、利用者へ他の施設との違いを説明するだけでひと苦労という状態でした。

しかし、数こそ少なくとも元気な市民活動団体は存在していました。まずはそのような団体から信頼され活動の場として選ばれる施設を目指しました。



窓口で利用者とのコミュニケーションを重ね、そこから必要な機能や支援業務を見直し、新たなサービスを生み出すという作業を繰り返しました。「団体情報」や「新聞記事」のファイルなどは、そうして始められたサービスです。

同時に、窓口寄せられる相談内容や対応の分析も全スタッフが参加して毎週、数時間にわたって実施しました。結果としてこれが職員の専門性を高めることになりました。

## ■5年目の検証

5周年を記念して発行した記念誌『仙台市市民活動サポートセンター 5年の軌跡』では、当時仙台市長だった藤井黎氏とサポセン指定管理者の

(特活) せんだい・みやぎNPOセンターの代表理事の加藤哲夫氏の対談が実現しました。

その中で藤井氏は、開館からの5年を振り返り「高校生のような若い人からお年よりまで、みんなが利用するサポートセンターになりました。でも、こんなになるとは思いませんでした」とその成果を語りました。

また、5年間で、自主的に活動に参加する市民が増え、NPO的な市民が育ったことにも触れ、「地域力」のベースに市民活動が不可欠であることにも言及しました。

## ■7年目の移転

サポセンは、築40年以上になる、もともとは予備校の建物だったものをリニューアルして利用していました。

そのため、老朽化に伴い雨漏りやひび割れなどの施設トラブルが頻発していましたし、耐震強度も心配でした。建物はそんな状態でしたが、利用者は確実に増え続けており、年間40,000人を超える市民の皆さんにご利用いただく施設になりました。

そんなサポセンの移転が決定したのは、2005年8月。移転先は青葉区一番町四丁目、本町サポセンから歩いて5分程度の場所で、移転オープンは2006年9月1日に決定しました。

サポセンは、「利用者意見交換会」「カラフルフェスタ」などのイベントを通じて、利用者と一緒に創り上げてきた施設です。2006年7月31日、本町サポセン最後の夜には、100人近い関係者や利用者が集い、サポセンの思い出を語り合い、本町サポセンとの別れを惜しみました。

### 2006年

9月

7月31日

9月1日

・総利用者数が20万人を突破！  
・5周年記念誌



・本町サポセン移転のため閉館  
・利用者交流会「本町サポセン最後の夜」に100名来場

・「市民活動シアター」誕生  
・サポセン移転オープン



### 2007年

7月1日

12月

・「仙台市シニア活動支援センター」オープン

・ぱれっと100号発行

### 2009年

6月

7月4日

11月

・サポセン10周年

・10周年記念シンポジウム

・サポセン大感謝祭



# サポセン 日記

## 『ぱれっと』が発送されるまで

みなさんに毎月お届けしている『ぱれっと』。  
印刷が仕上がってきてから発送までの様子をのぞいてみましょう。

### 1日目 『ぱれっと』納品日

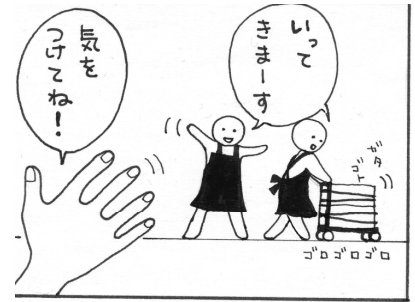
『ぱれっと』お持ちしました〜!

午後、印刷会社から『ぱれっと』が納品されると、すぐさま発送作業開始です。『ぱれっと』に添書をそえて、指定された部数を数えて封筒に入れていきます。同封するサポセンからのお知らせは、各担当者が順次、封筒に入れていきます。



### 2日目 封づめ&糊付け

入れ忘れがないか、チェックが済むと糊付けします。20〜30部お届けしている所の封筒はパンパンです。「封筒の口、ちゃんと閉まるかしら…?」破けないか心配です…。



### 3日目 『ぱれっと』発送

市内公共施設へのお届け分は、スタッフが台車に『ぱれっと』を乗せ、市役所へ持っていきます。量が多いので、スタッフ2〜3人がかりです。コンテナが落ちないようにゴムバンドでしっかり固定して、「いってきまーす!」市役所経由で各施設からみなさんのもとへ。そのほかは、メール便でお届けします。

### 4日目 館内配架

サポセンの館内に『ぱれっと』を配架します。1階のラック・窓口、そして各階にも置きます。また、レターケースにも1部ずつ入れて、利用団体さんにお届けします。

こうしてみなさんのお手元に届いた今月の『ぱれっと』、いかがでしたか?取材・編集・デザインから発送までスタッフが真心こめてお届けしています。(担当 菅野 祥子)

## お知らせ ●○○●

### 【第2期】サポセン・シアターを3倍面白くする企画 実施6企画決定!

実施月	企画タイトル	主催団体
2009年 6月25日、26日	Book! Book! Sendai 「ワンダーランド・ブック・カフェ」 ～本と人と街が会う2日間～	杜の都を本の都にする会
7月17日～20日	「環境警察2209 in 仙台」	(特活)フリンジシアタープロジェクト
8月29日～30日	「中南米音楽でバリアフリー」 作ってならして、みんなで楽しく、歌っておどる	(特活)博英舎・こころや
12月5日	Liveng Together in SENDAI -another story- 「映画+朗読+ラウンジ」で感じるHIVの今	東北HIVコミュニケーションズ
2010年 1月22日～24日	仙台ジャズ・ピアノ クラブ コンサートVol.1	仙台ジャズ・ピアノ クラブ
2月	劇団ファットブルーム貸します	劇団ファットブルーム

# 5月の イベント紹介

■サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。  
 ■原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。  
 ■毎月5日締め切りで、翌月サポートセンターを会場に開催するイベント情報を募集しています。掲載をご希望の方はお問い合わせください。

## ●貸室での催し物

開催日時	イベントタイトル	貸室	参加費	主催/問い合わせ先
5月12日(火) 10:00~11:45	親業セミナー 「上手に子離れできてますか」 ～子供とのいい関係の築き方～	研修室 5	500円 (事前申込不要)	PETフォーラム Tel&Fax:022-281-0858 http://www.k3.dion.ne.jp/~smile55/ index.html (石田えみ子)
5月12日(火) 19:00~21:00	平和志向海外交流壁画制作をします。 平和を志す高校生から社会人を募集し ます。定員10名。	研修室 3	コーヒー・資料 500円 (事前申込必要)	あーすらいふ仙台 携帯:090-2841-0800 Fax:022-268-4042 レターケース28 (中津川勇志)
5月13日(水) 11:00~13:00	ベビーケア マッサージ、ママのケア、ハーブティ、 コスメ等を楽しみます。	研修室 3	材料代として 1,500円 (事前申込必要)	Heartの会 携帯:080-1823-3146 (曾根千賀子)
5月19日(火) 18:30~20:30	国際語エスペラント 一日講習 国際語エスペラントの概略・現状・学習 法のご紹介	研修室 2	資料代 500円 (事前申込不要)	仙台エスペラント会 Tel&Fax:022-376-5641 (大越啓司)
5月20日(水) 16:00~20:00	初めての華道教室	研修室2	花代 730~ 1,050円 (事前申込不要)	アクティブルーム☆伊達っ子実行委員会 携帯:090-5237-2292 Fax:022-225-8655 (国分)
5月20日(水) 19:00~21:00	ワードのできるチラシデザインのテク ニック	研修室 5	1,500円 (事前申込必要)	NPOメディアデザインサポート 携帯:090-3049-0613 (千葉) Fax:022-224-5308
5月23日(土) 13:30~16:30	僕と私のRe.スタート! ～自立への一歩～	セミナー ホール	無料 (事前申込不要)	(特活)くりこま高原・地球の暮らしと自然 教育研究所 Tel:0228-49-3155 Fax:0228-49-3166 (吐合賢)
5月26日(火) 19:00~20:30 全15回	国際語エスペラント 入門講座 民族を超えた国際語エスペラントの ABCから15回の講座	研修室 2	教材費 7,000円 (事前申込不要)	仙台エスペラント会 Tel&Fax:022-376-5641 (大越啓司)



『フードバンクという挑戦  
貧困と飽食のあいだで』

著者：大原 悦子  
発行：岩波書店  
定価：1,995円(税込)

■この本は「B ジェンダー・  
人権」にあります。

(担当 高橋 陽佑)

日本第一号のフードバンクは東京で立ち上がり、CSRに関心の高い企業を巻き込みながら、年間数千万円の事業規模に発展しました。これから団体を立ち上げたい方に役立つエピソードが盛り込まれたオススメ本です。

日本では一年間に約二千万トンの食品廃棄物が発生していますが、そのうちの五百九十九万トンは、まだ食べられるのに廃棄されているという推計があります。(※農林水産省「食品ロスの削減に向けた検討会」報告書より(平成二十年十二月))このような食べられる食品を預かって、生活困窮者や福祉施設へ届ける活動をフードバンクと言います。直訳すると「食べ物の銀行」という意味です。

この本では、アメリカの先進的な取り組みを紹介しつつ、フードバンクの仕組みを紹介しています。アメリカでは四十年以上も続けられている活動ですが、日本でのフードバンクは、十年ほど前に、一人の外国人の想いをきっかけに始められました。

日本では一年間に約二千万トンの食品廃棄物が発生していますが、そのうちの五百九十九万トンは、まだ食べられるのに廃棄されているという推計があります。(※農林水産省「食品ロスの削減に向けた検討会」報告書より(平成二十年十二月))このような食べられる食品を預かって、生活困窮者や福祉施設へ届ける活動をフードバンクと言います。直訳すると「食べ物の銀行」という意味です。

◆サポートセンターの本を紹介しします。

オススメ  
今月のサポ本  
「フードバンクという挑戦  
貧困と飽食のあいだで」

# 主催イベントのお知らせ



<申込み> TEL 022-212-3010

日時	イベント内容	会場	料金
5月26日(火) 19:00~20:30	<b>ONPOいろは塾</b> 90分でNPOの基礎が学べる講座を行います。	研修室5 (4F)	500円 (事前申込必要)
3月26日(木) (6月末 終了予定)	<b>〇エイブルアート展「ひめくり画レンダー2009」</b> 毎日違った絵画があらわれる、カレンダーならぬ「画レンダー」の展示を約90日間行います。(作品提供:アートプラネット 美楽アートクラブ)	情報サロン (1F)	無料 (事前申込不要)

## 仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ

< 申込み・問合せ > TEL 022-217-3983  
仙台市シニア活動支援センター (サポセン3階)

日時	イベント内容	会場	料金
4月25日(土) 14:00~17:00	<b>◆「出前」シニアセンター</b> 仙台市民図書館に設けた臨時シニアコーナーにて、情報提供や相談などを行います。	仙台市民 図書館 (3F)	無料 (事前申込不要)
5月9日(土) 10:00~18:00	<b>◆専門相談</b> 災害時にも大活躍!無線やバイクツーリングなどの趣味が、いざという時に地域のために役立ちます。興味のある方、これからやってみたい方、活動に参加してみませんか?	研修室1 (3F)	無料 (事前申込必要)
5月19日(火) 18:30~20:30	<b>◆お役に立ちたいあなたのための、棚卸しサロン</b> 個人の思いやスキルの整理・棚卸しをしていただいたり、ゲストをお招きしてすでに活動されている方の体験をお話いただきます。ドリンク付きの交流会もあります。	セミナー ホール (6F)	1,000円 (事前申込必要)

## ■ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

## ■ サポートセンターのサービスあれこれ

- 貸 室(研修室・セミナーホール・市民活動シアター/有料)  
打合わせ、講演会、シンポジウム等で使えます。
- ロッカー(有料)レターケース(無料)  
事務用ブース(有料)
- 交流サロン  
少人数の打合わせに予約なしで使えるフリースペース(無料)  
チラシ・ポスターの掲示、展示スペース  
インターネット接続スペース(要申込/無料)
- 情報サロン  
市民活動団体に関するさまざまな情報があります。  
市民活動相談の受付や図書の閲覧・貸出も行っています。  
市民活動に関する情報収集用 インターネット閲覧(無料)
- 印刷作業室  
印刷機(紙持ち込み/1製版100円、紙折り機(無料))  
コピー機(1枚10円)

## ■ 開館時間

- 平日 午前9時~午後10時
- 日曜・祝日 午前9時~午後6時

## ■ 休館日のお知らせ(施設点検等のため)

**5/27 6/24**

## ■ 案内図



○当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車でご来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注)路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

○ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

[最寄りのバス停]

電力ビル前、商工会議所前、広瀬通一番町前、地下鉄広瀬通駅前

[地下鉄]広瀬通駅西5番出口すぐ

## ■ 編集後記

◆桜を愛でることなく、春を終えてしまいそうです。こんなときは『書を捨てよ、町へ出よう』の精神ですね。あっ、『ぱれっと』は捨てないでください。(内川)

◆今年は、サポセン開館から10周年。利用者の皆さんと一緒に、この記念すべき1年を楽しんでいきたいと思っております。(小松)

発行:仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日:2009年4月23日

編集:特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人:内川奈津子 小松州子 葛西淳子

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間:2007年4月1日~2010年3月31日]